

b) 高等学校

i) 信楽高校

信楽高校は信楽駅からほど近く、信楽高原鐵道と各バス路線が接続しています。また、朝宮線等のバス路線*が、信楽地域内におけるアクセス性の向上には大きく寄与しています(図 2.58、図 2.59)。

※朝宮線、多羅尾線、田代、畑、陶芸の森巡回線、たらおデマンド、たしろ・はたデマンド

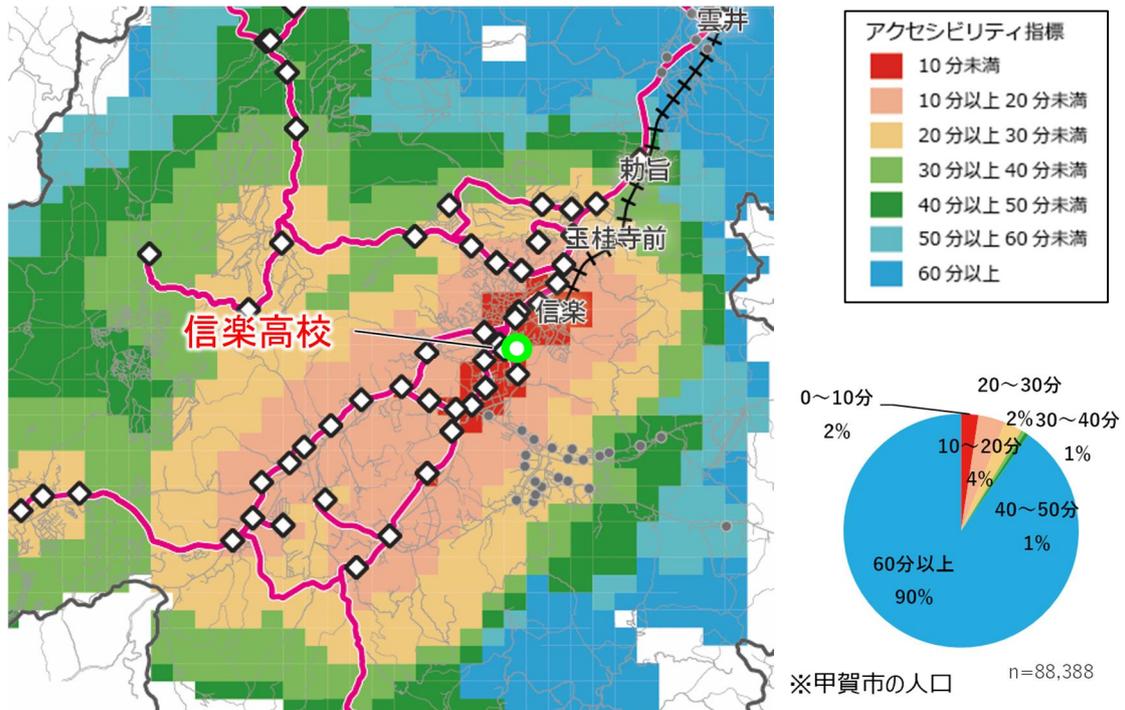


図 2.58 信楽高校へのアクセシビリティ

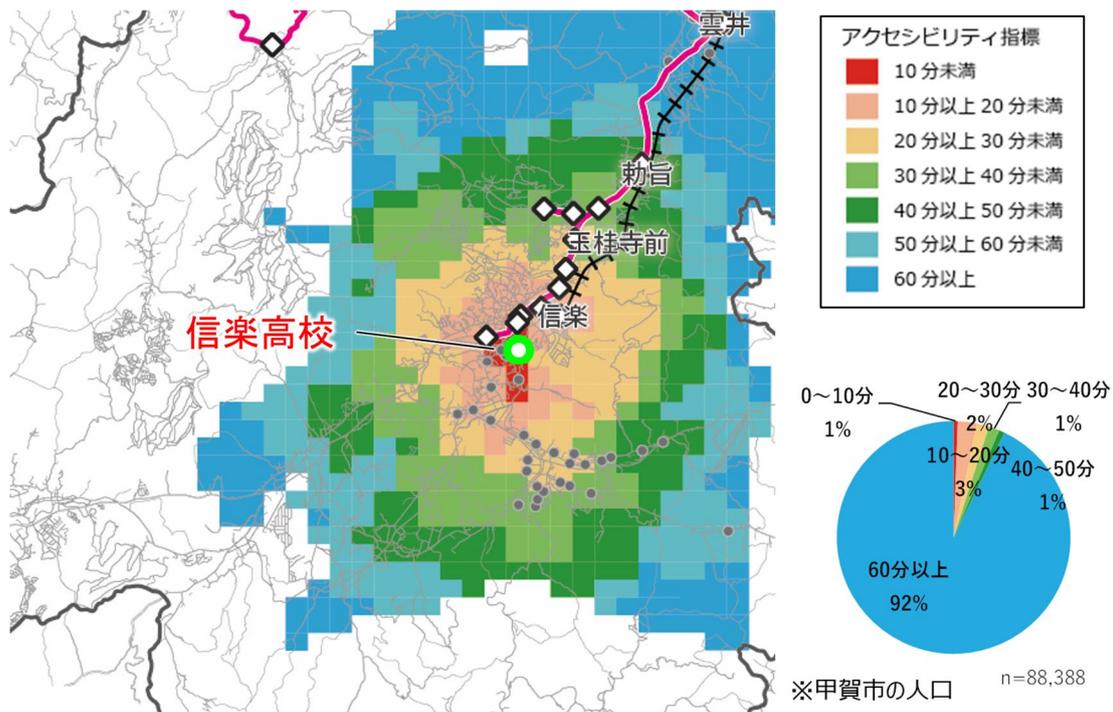


図 2.59 朝宮線等が利用できない場合における信楽高校へのアクセシビリティ

ii) 石部高校

石部高校は石部駅、甲西駅と石部循環線によって接続しています。石部循環線が存在することで、湖南省市の人口における 58%が 60 分以内にアクセス可能な状況です（図 2.60）。

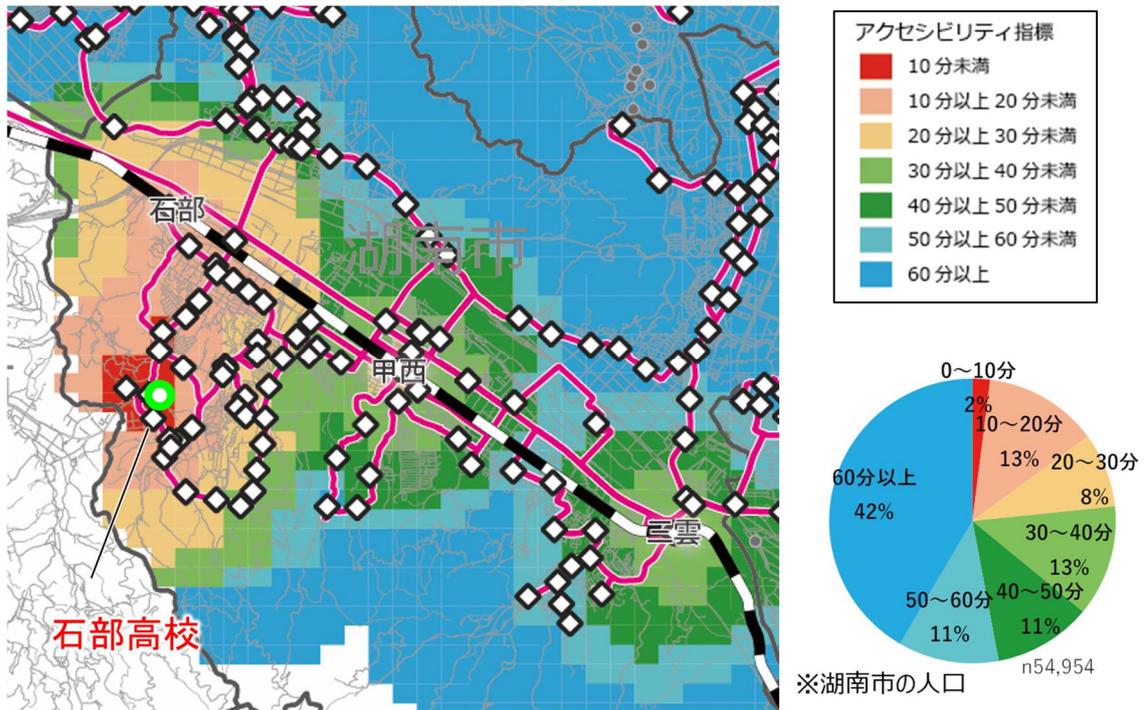


図 2.60 石部高校へのアクセシビリティ

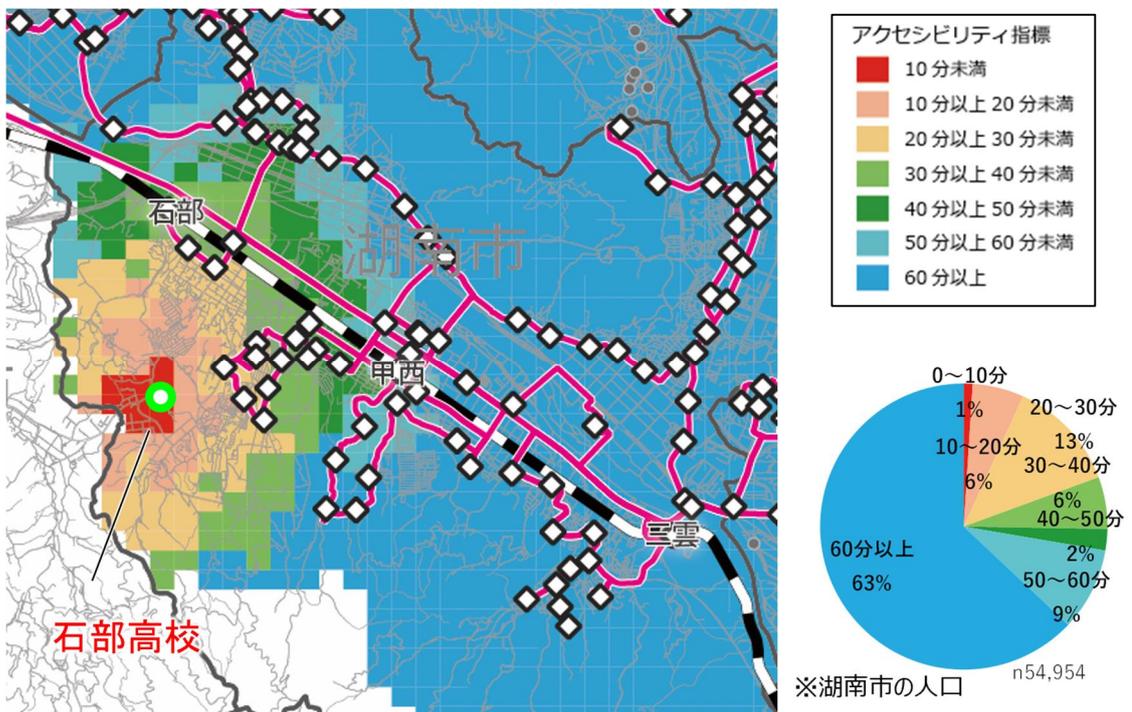


図 2.61 石部循環線が利用できない場合における石部高校へのアクセシビリティ

iii) 水口高校・水口東高

水口高校、水口東高校は、甲賀市コミュニティバス※で水口駅、水口石橋駅と接続しています。これら路線が存在することで、甲賀市の人口における約 53%が 30 分以内にアクセス可能な状況です（図 2.62）。

※甲賀市コミュニティバス（希望ヶ丘・水口線、和野、中畑線、三雲駅・市役所線、八田駅、土山本線、広域水口線）、みなくちデマンドバス

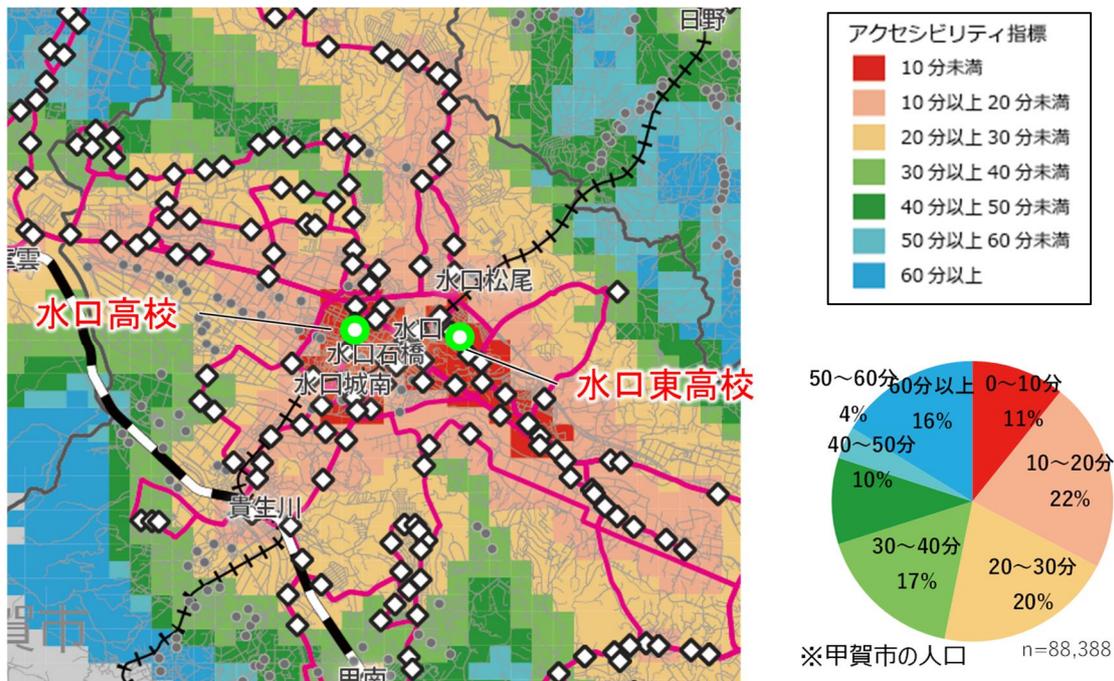


図 2.62 水口高校・水口東高校へのアクセシビリティ

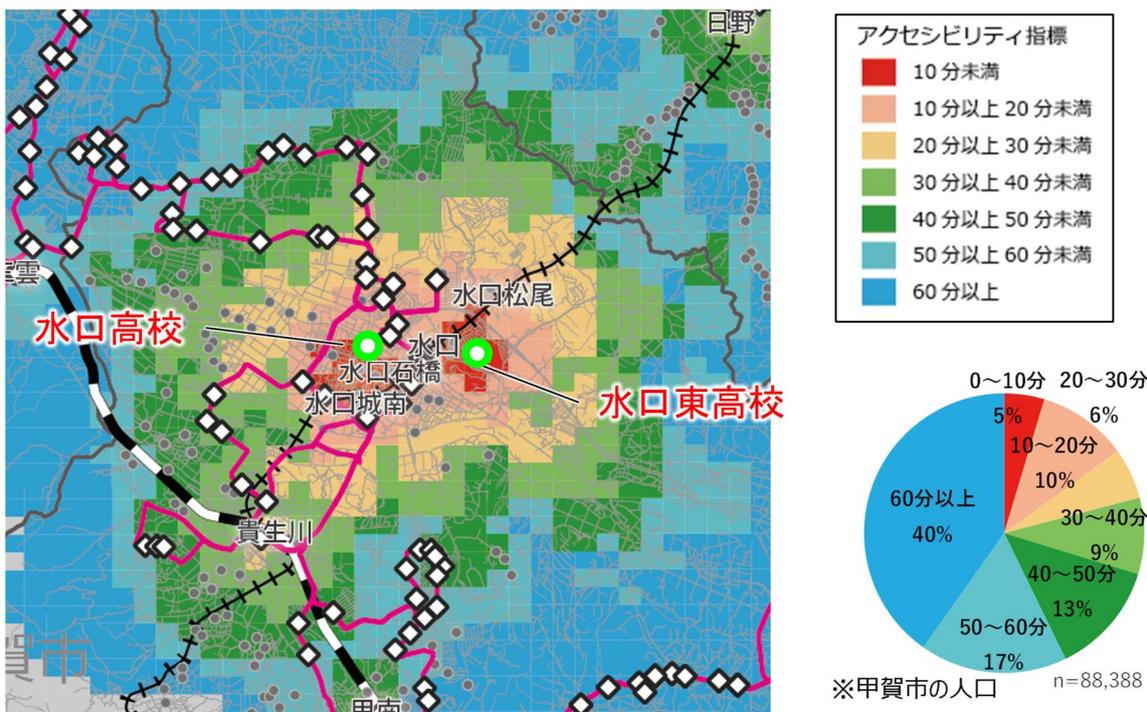


図 2.63 甲賀市コミュニティバス等が利用できない場合における水口高校・水口東高校へのアクセシビリティ

2.3.5 大津・湖南地域(大津市南部、草津市、守山市、栗東市、野洲市、近江八幡市)

1) 移動の状況

大津・湖南地域は草津市、近江八幡市を中心に各市内での流動が多く、市域をまたぐ流動としては草津市を起点としたものや、京阪神との流動が多い傾向があります。また、発生集中量が多いエリアは、鉄道駅を中心に一部郊外部の大学等集積地やレクリエーション施設集積地にも存在しています。

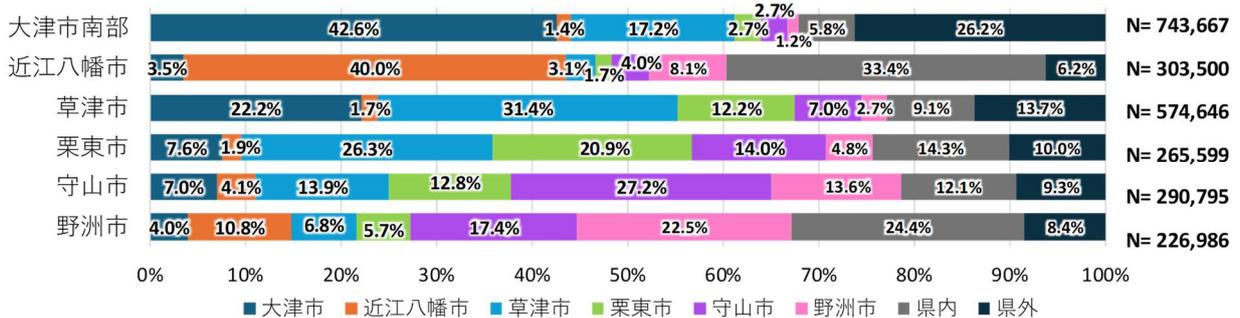
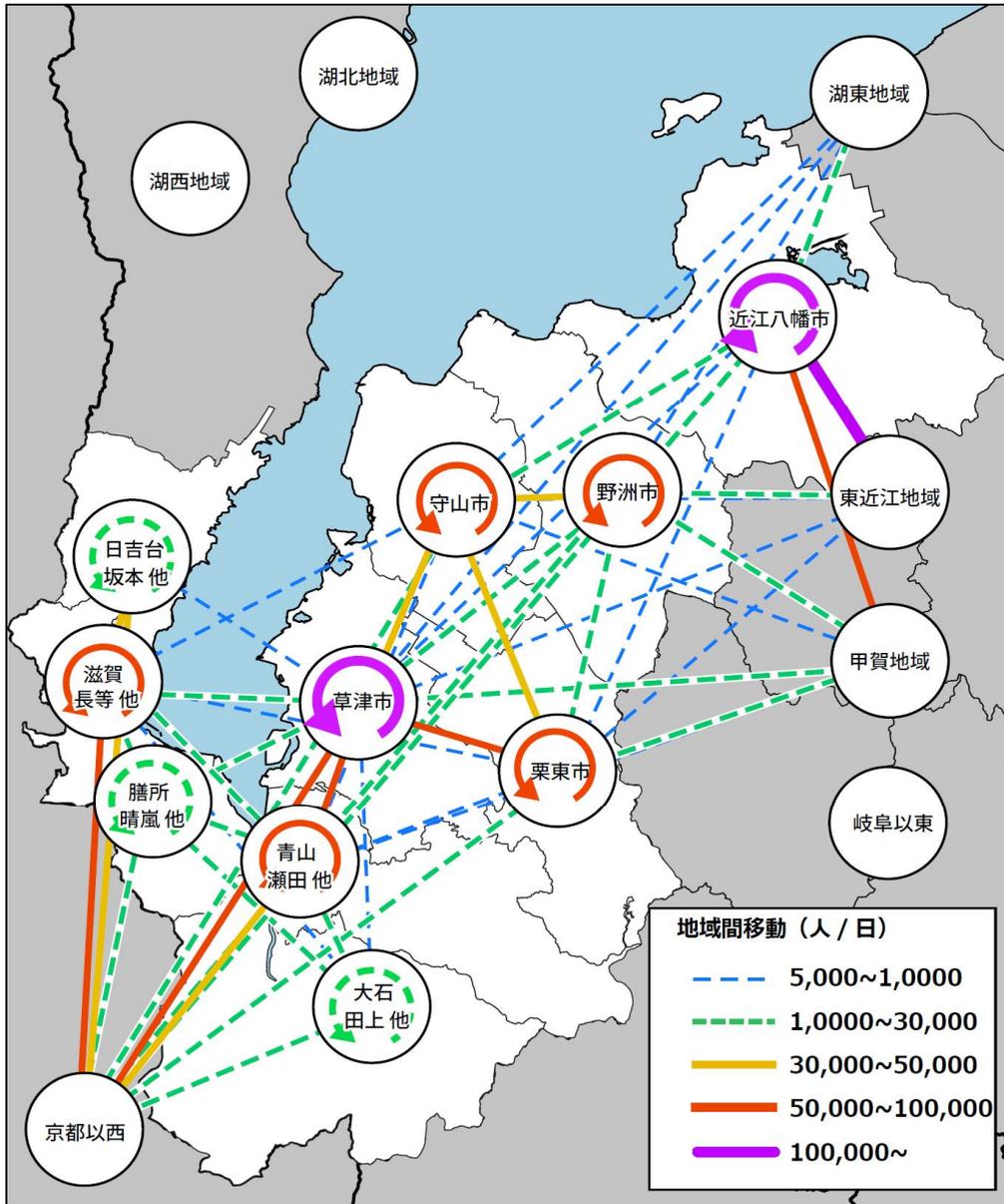


図 2.64 大津・湖南地域の流動(出典：全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

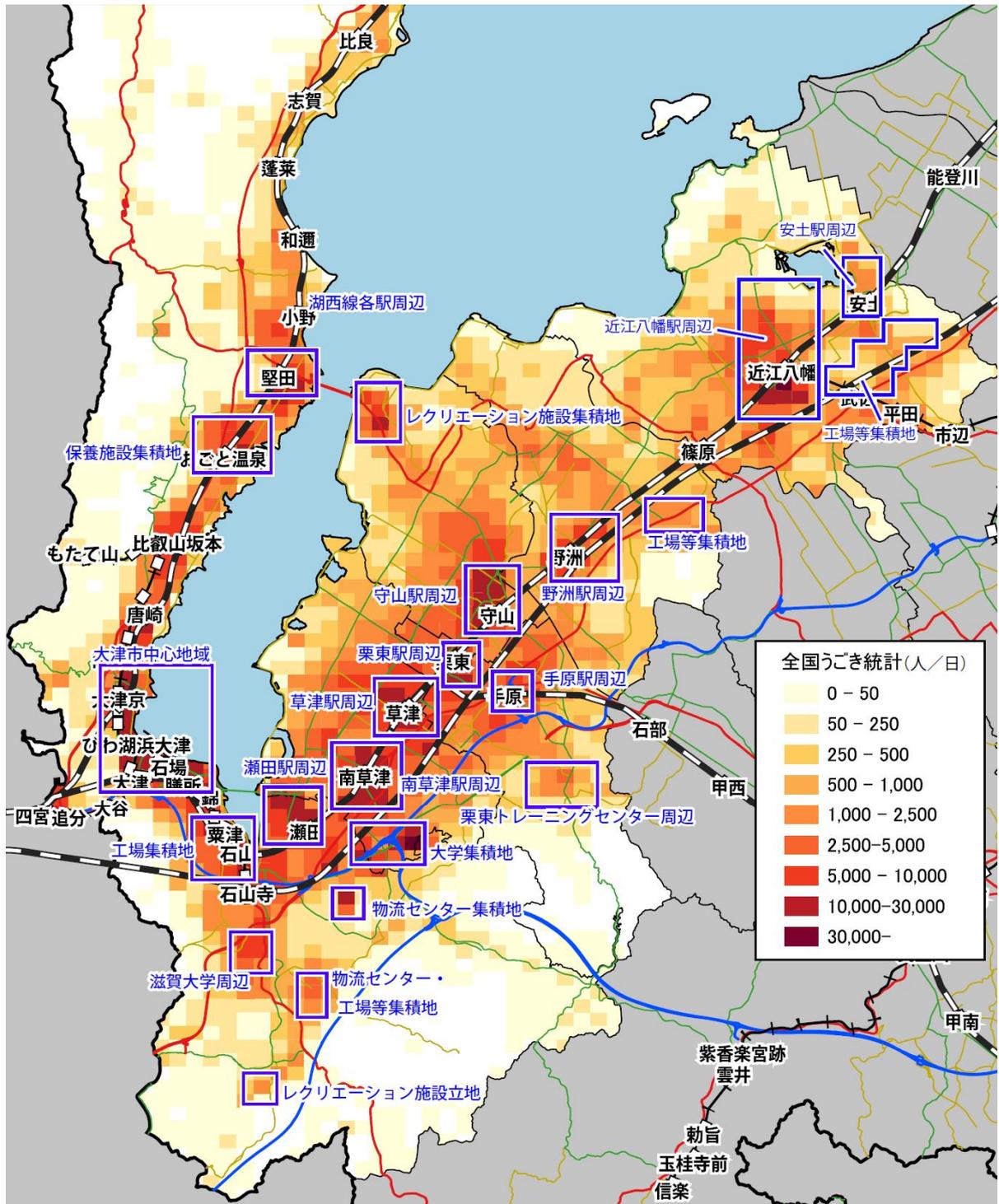


図 2.65 大津・湖南地域の発生集重量(出典:全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

2) 交通の状況

大津・湖南地域には、滋賀県北部、京阪神へとつなぐ広域的な移動の軸となる鉄道路線としてJR琵琶湖線、JR湖西線、京阪京津線、京阪石山坂本線が存在しています。

主に通勤・通学を支える路線としては下田線（三雲駅ルート）、66A系統（大津～比叡平）、56・56A系統（比叡平～三条京阪）が都市部と住宅地をつないでいるほか、野洲アウトレット線・服部線・京阪バス4系統（石山駅～大石小学校）が存在しています。

また、琵琶湖の東側と西側を結ぶ湖岸の連絡路線として、堅田駅-守山駅間をつなぐ琵琶湖大橋線・木の浜線や、草津駅-大津駅-びわ湖浜大津駅間を結ぶ近江大橋線が存在しています。これら移動の軸を、その他のコミュニティバスやデマンド交通が細やかな移動を面的に支える状況です。

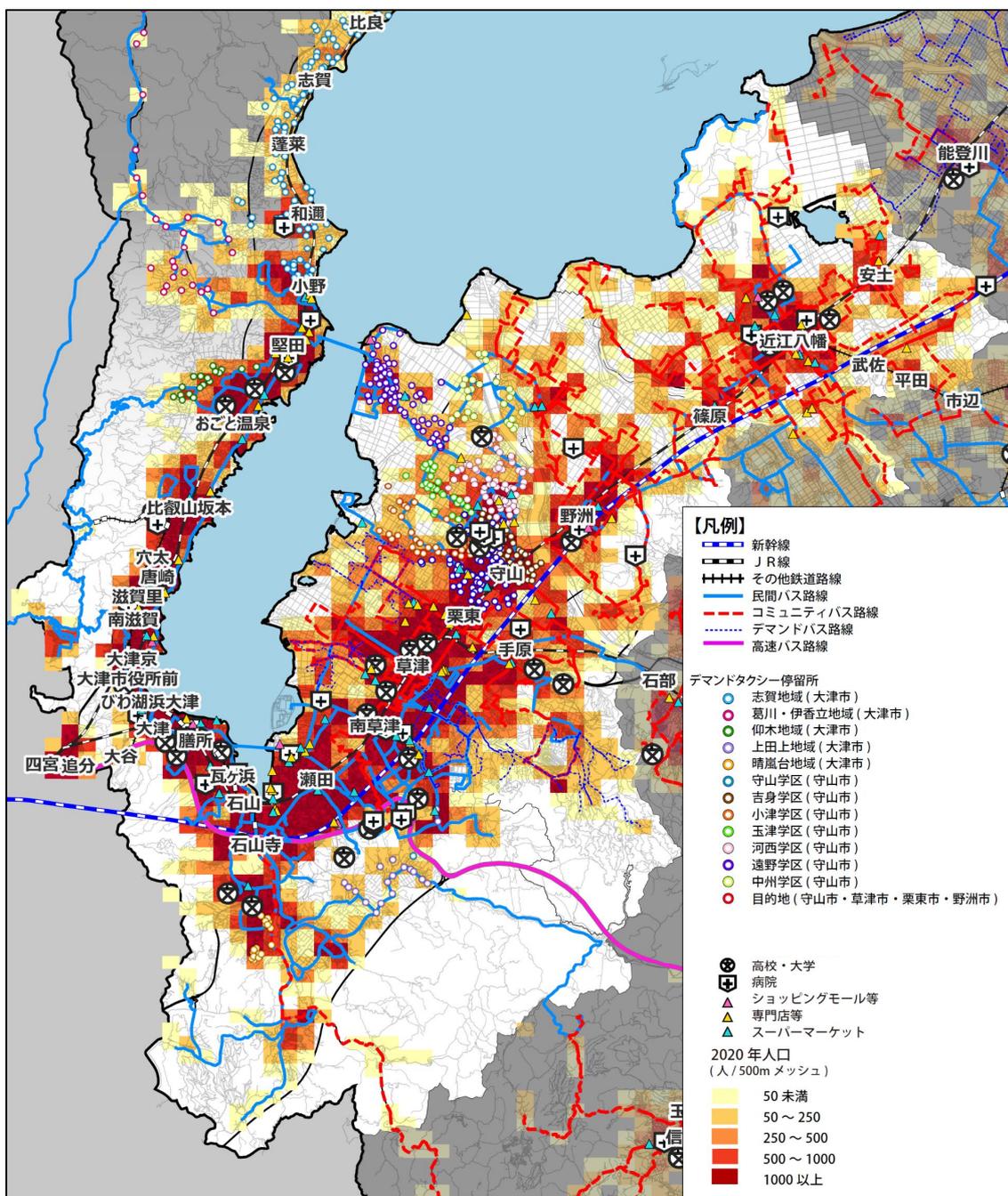


図 2.66 大津・湖南地域の地域交通ネットワーク

しかし、大津・湖南地域を運行するバス路線の運行頻度は高くありません。鉄道は充足していますが、バスについては、沿線の人口密度に関わらず、路線や地域ごとに運行頻度に大きな差があります。10分～15分に1本程度の高頻度で運行している路線も多くみられる反面、数時間に1本しか運行していない路線もあります。

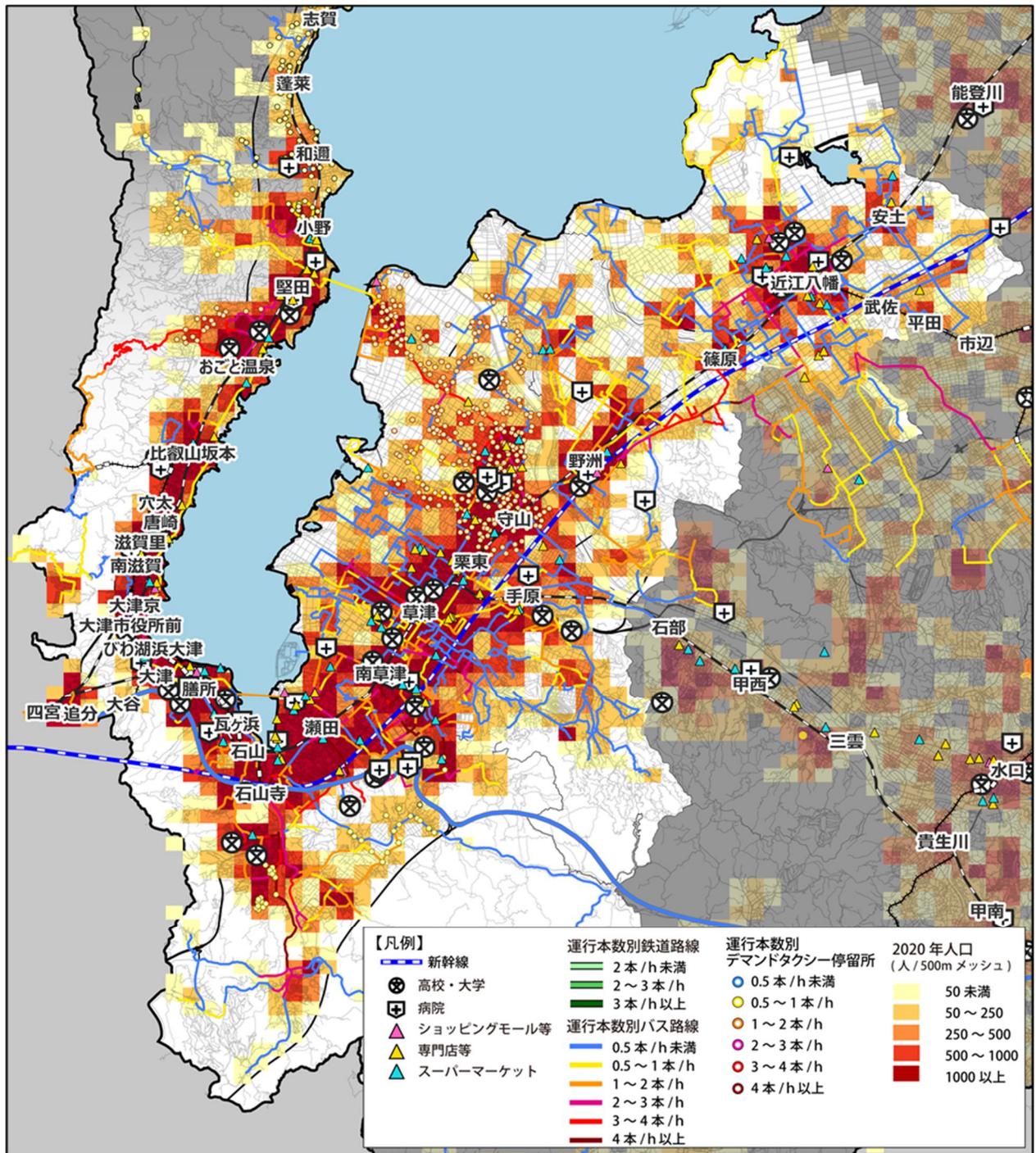


図 2.67 大津・湖南地域における地域交通の運行頻度(平日)

夜間では、21 時以降も運行しているバス路線が複数見られ、草津市のデマンド交通は 20 時まで運行しているなど、全体的に運行終了時刻が遅く、夜間の移動手段は比較的充足していると言えます。また、タクシーの運行台数も県内他地域の数倍と多く、夜間の移動を含め地域交通での移動が可能な状況にあります。

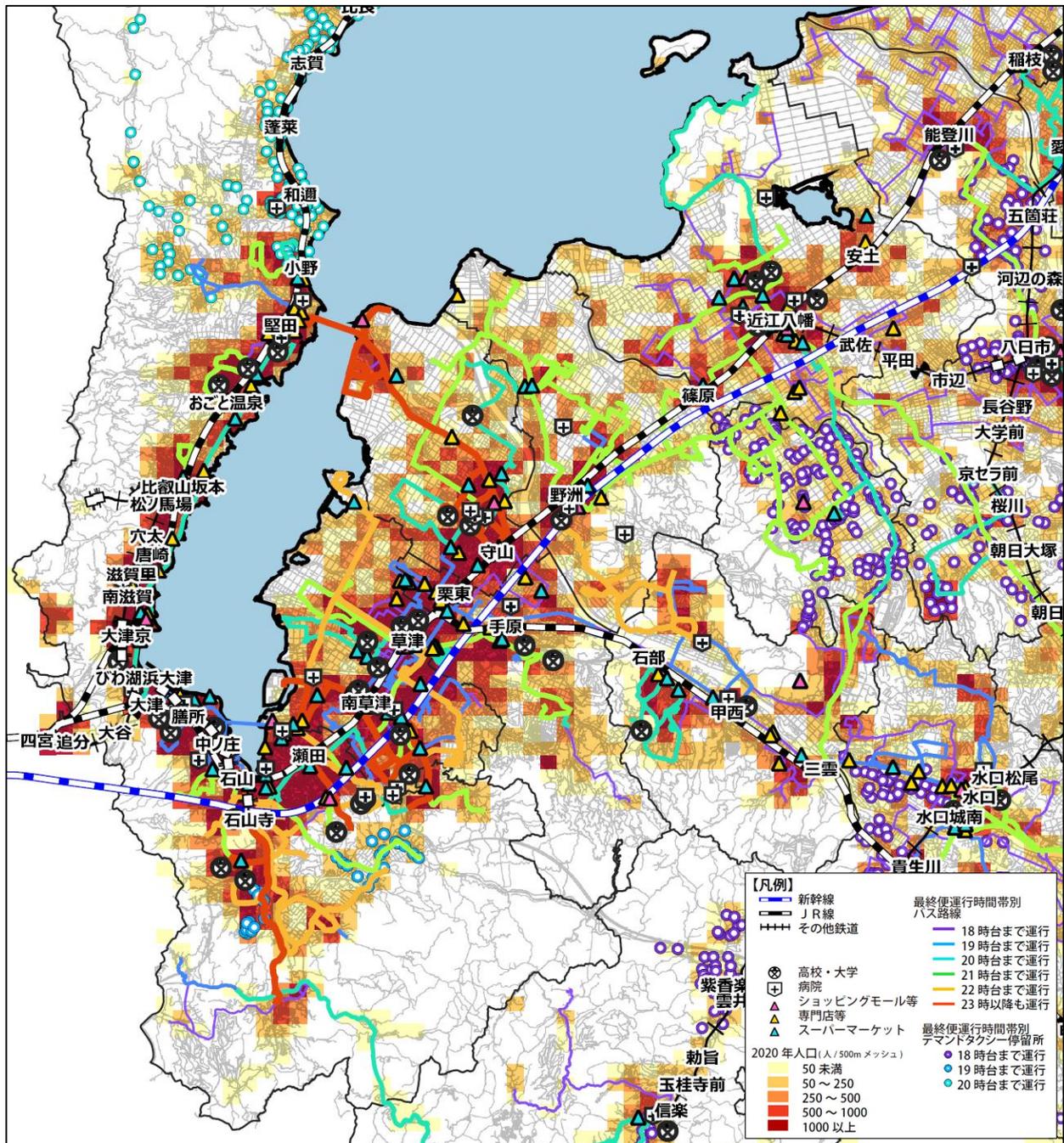


図 2.68 大津・湖南地域における夜間の地域交通運行状況

(1) 分野ごとに見る交通の状況

a) 病院

i) 済生会滋賀県病院

済生会滋賀県病院は、草津伊勢落線等※のバス路線で手原駅、守山駅と接続しており、栗東市の人口における83%が30分以内にアクセスできます（図 2.69）。

※草津伊勢落線、葉山循環線、治田金勝線、宅屋線

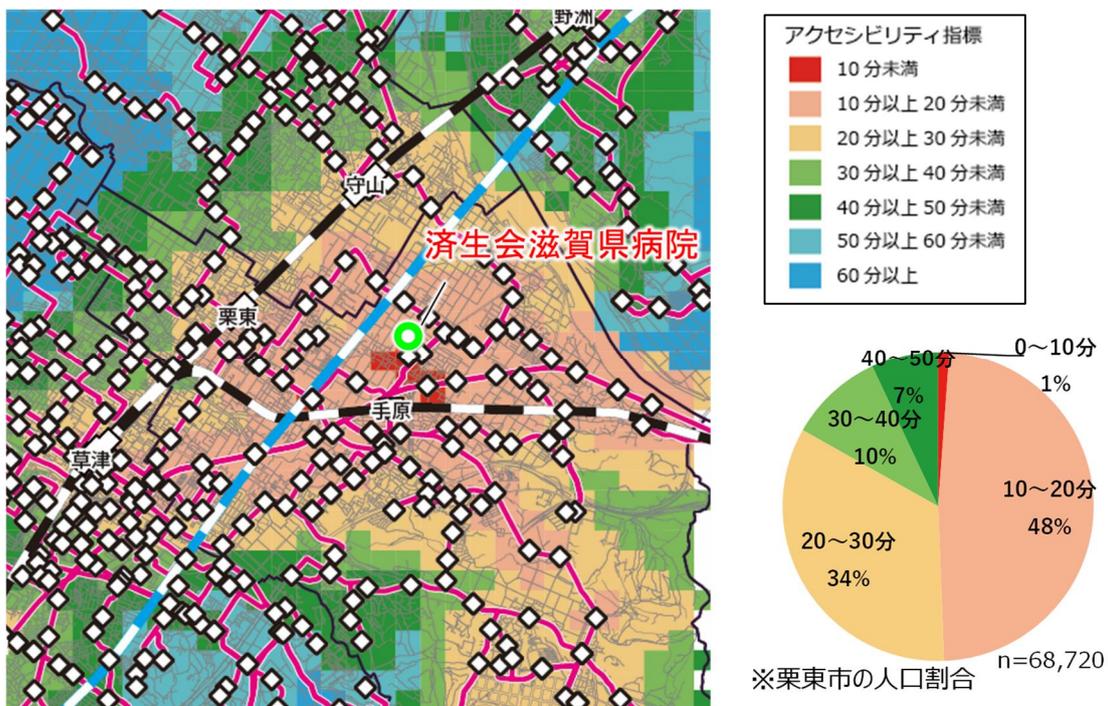


図 2.69 済生会滋賀県病院へのアクセシビリティ

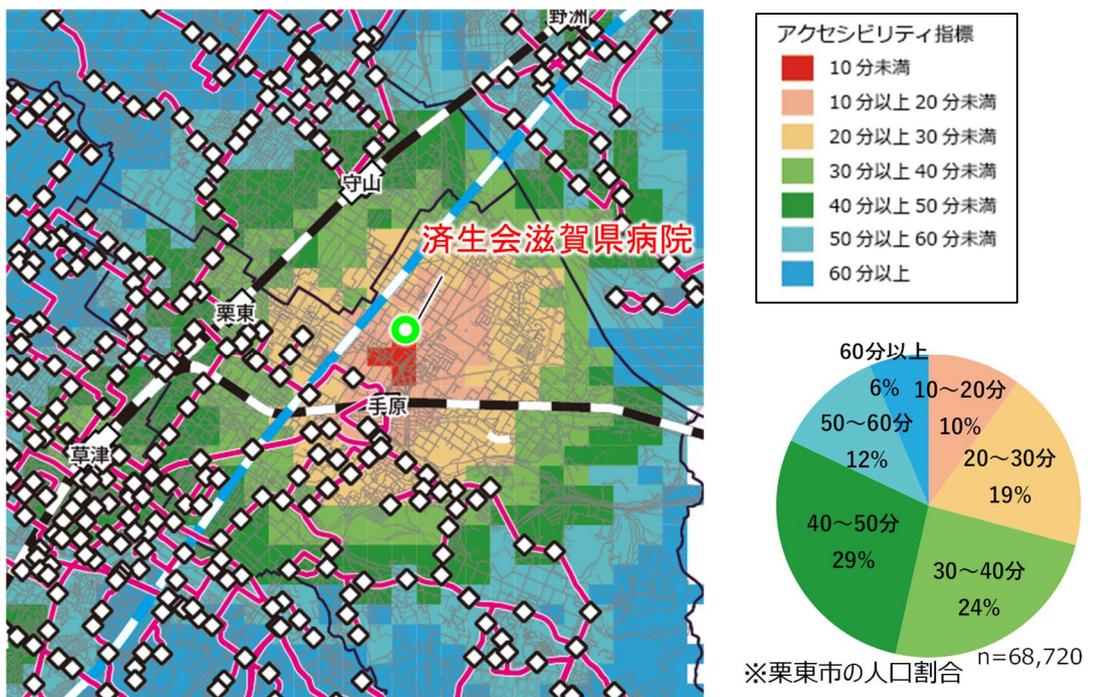


図 2.70 草津伊勢落線等が利用できない場合における済生会滋賀県病院へのアクセシビリティ

ii) 滋賀県立総合病院

滋賀県立総合病院は小浜線等※によって守山駅と接続しています。小浜線等が存在することで、守山市の人口における73%が30分以内にアクセスできます(図 2.71)。

※小浜線、木の浜線、市民ホール線、琵琶湖大橋線、大宝循環線

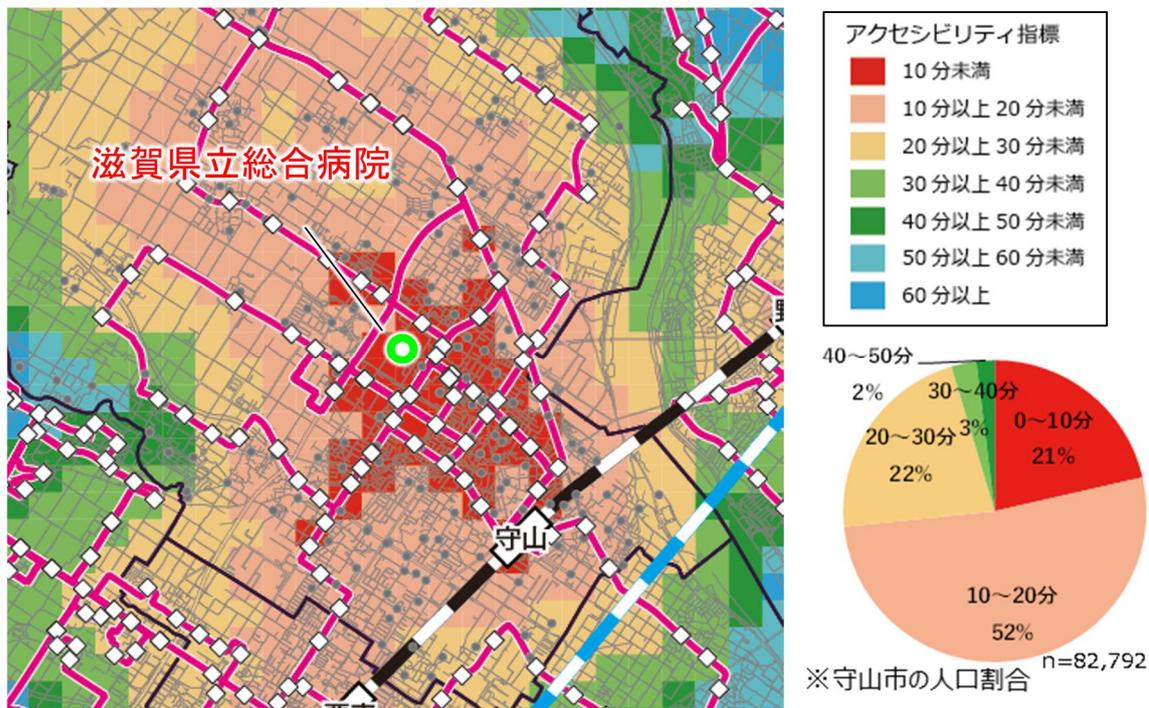


図 2.71 滋賀県立総合病院へのアクセシビリティ

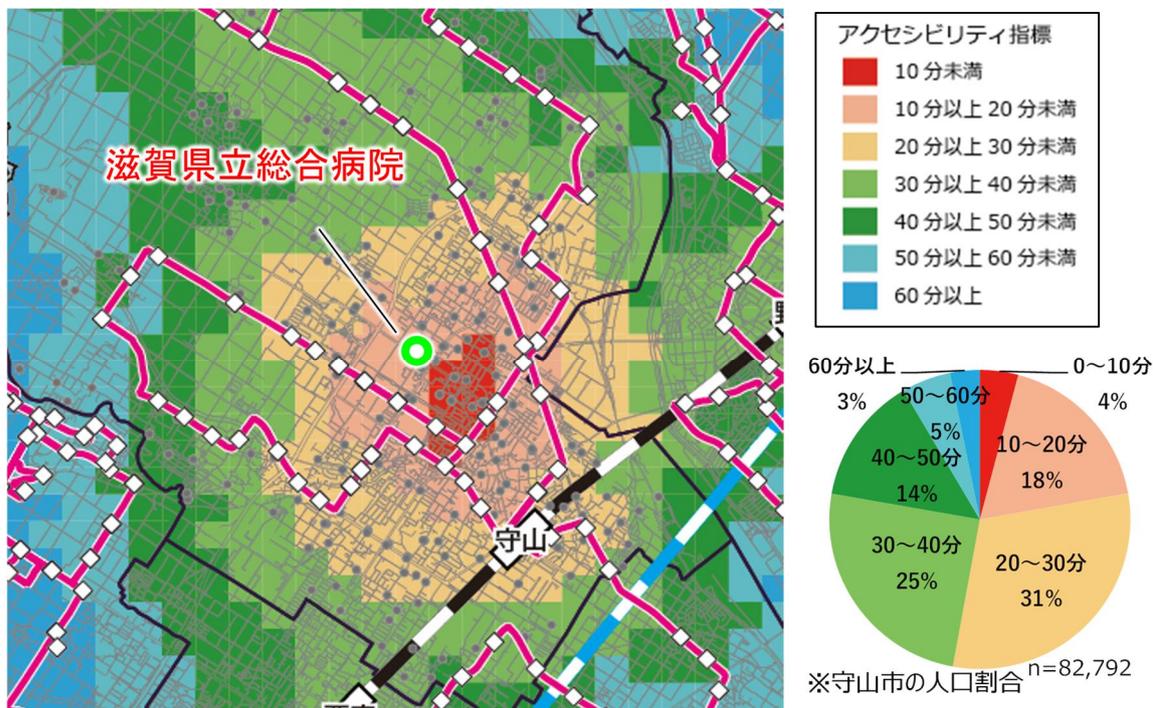


図 2.72 小浜線等が利用できない場合における滋賀県立総合病院へのアクセシビリティ

b) 大学

i) 滋賀医科大学

滋賀医科大学はバスにより草津駅、南草津駅、瀬田駅等と接続しています。草津駅医大線等※が存在することで、草津市の人口における86%が60分以内にアクセス可能なほか、JR琵琶湖線を利用する他府県からの学生が駅から30分未満でアクセス可能な状況です（図2.73 図2.73）。

※草津駅医大線、南草津飛島線、南草津医大線、南草津駅～養護学校線

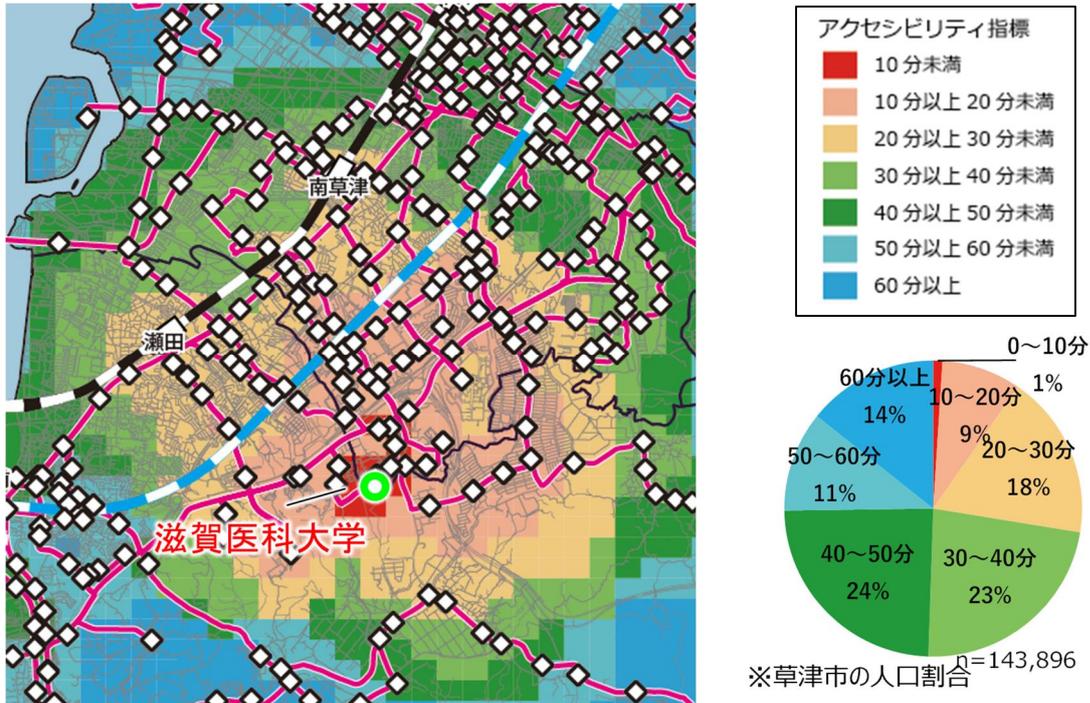


図 2.73 滋賀医科大学へのアクセシビリティ

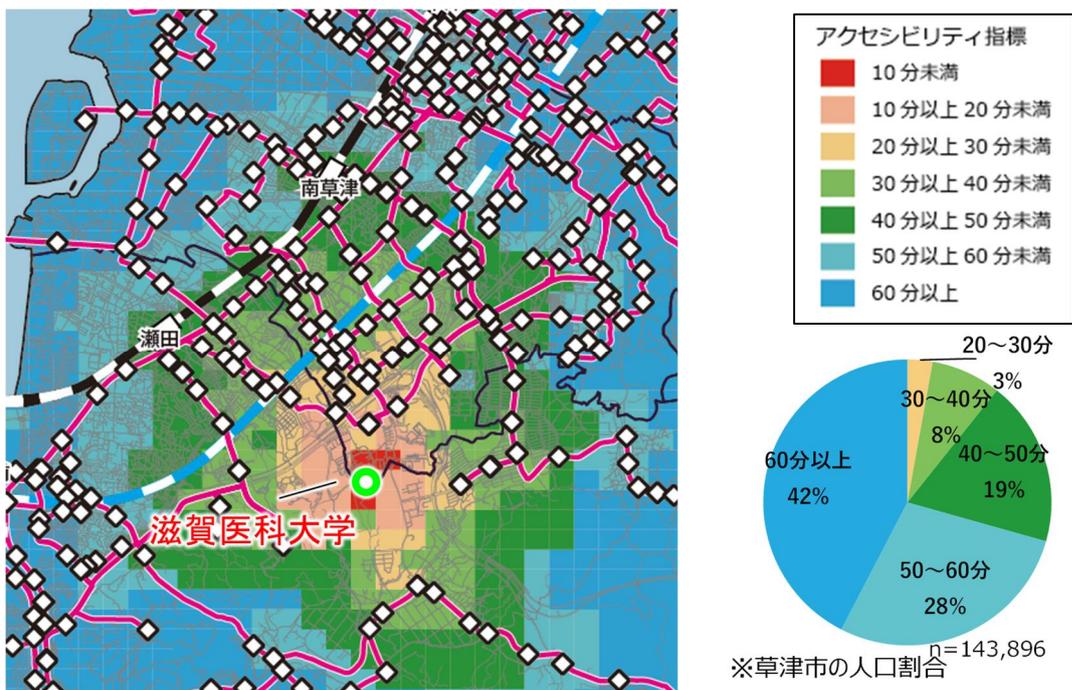


図 2.74 草津駅医大線等が利用できない場合における滋賀医科大学へのアクセシビリティ

ii) 立命館大学

立命館大学は主に南草津駅、瀬田駅等と接続しています。南草津飛鳥線等※が存在することで、草津市の人口における 88%が 60 分以内にアクセス可能なほか、J R 琵琶湖線を利用する他府県からの学生が駅から 30 分未満でアクセス可能な状況です (図 2.75)

※南草津飛鳥線、南草津立命線、UCD-ARROW 循環線、草津立命線、草津医大線

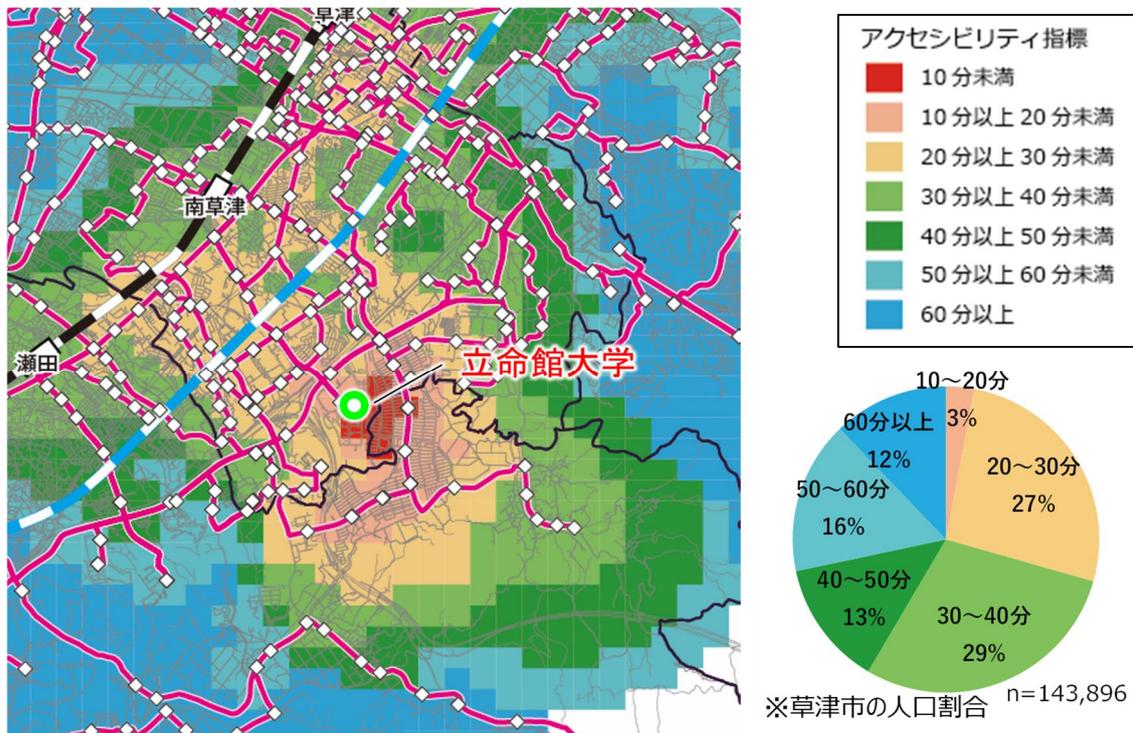


図 2.75 立命館大学へのアクセシビリティ

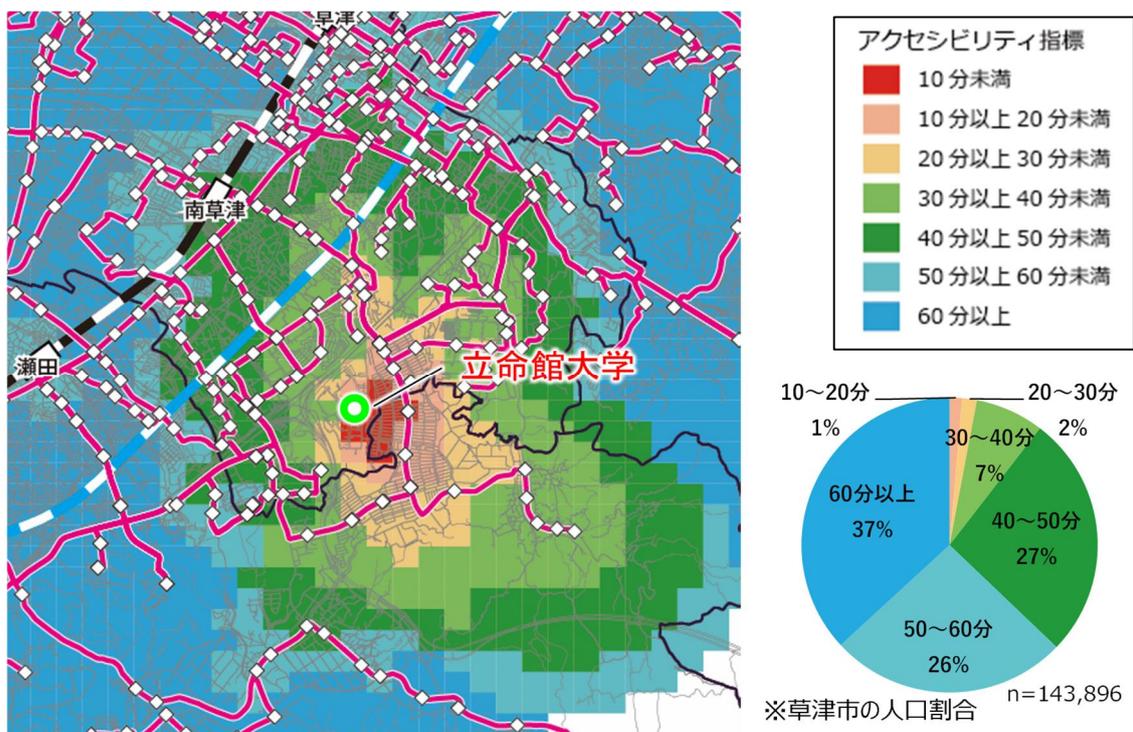


図 2.76 南草津飛鳥線等が利用できない場合における立命館大学へのアクセシビリティ

c) 商業施設

i) イオンモール草津

イオンモール草津はバス路線で南草津駅、瀬田駅、石山駅と接続しています。イオンモール瀬田線等※が存在することで、草津市の人口における 93%が 60 分以内にアクセス可能な状況です (図 2.77)。

※イオンモール瀬田線、イオンモール南草津線、近江大橋線、浜街道線

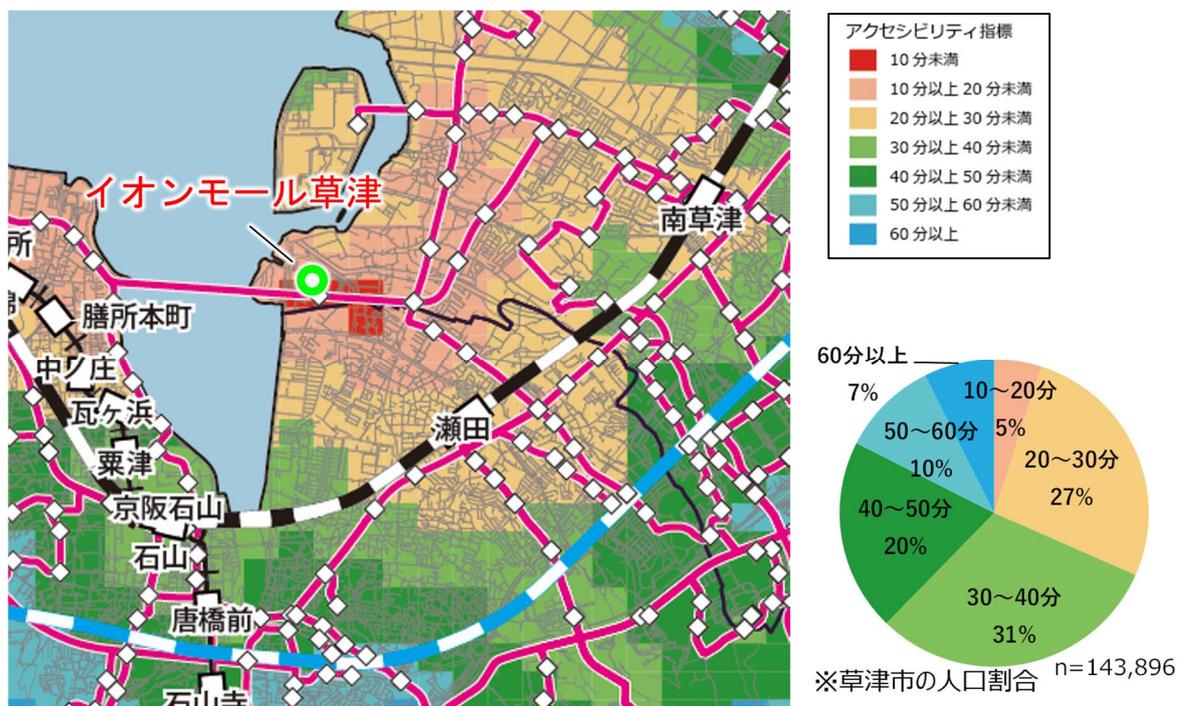


図 2.77 イオンモール草津へのアクセシビリティ

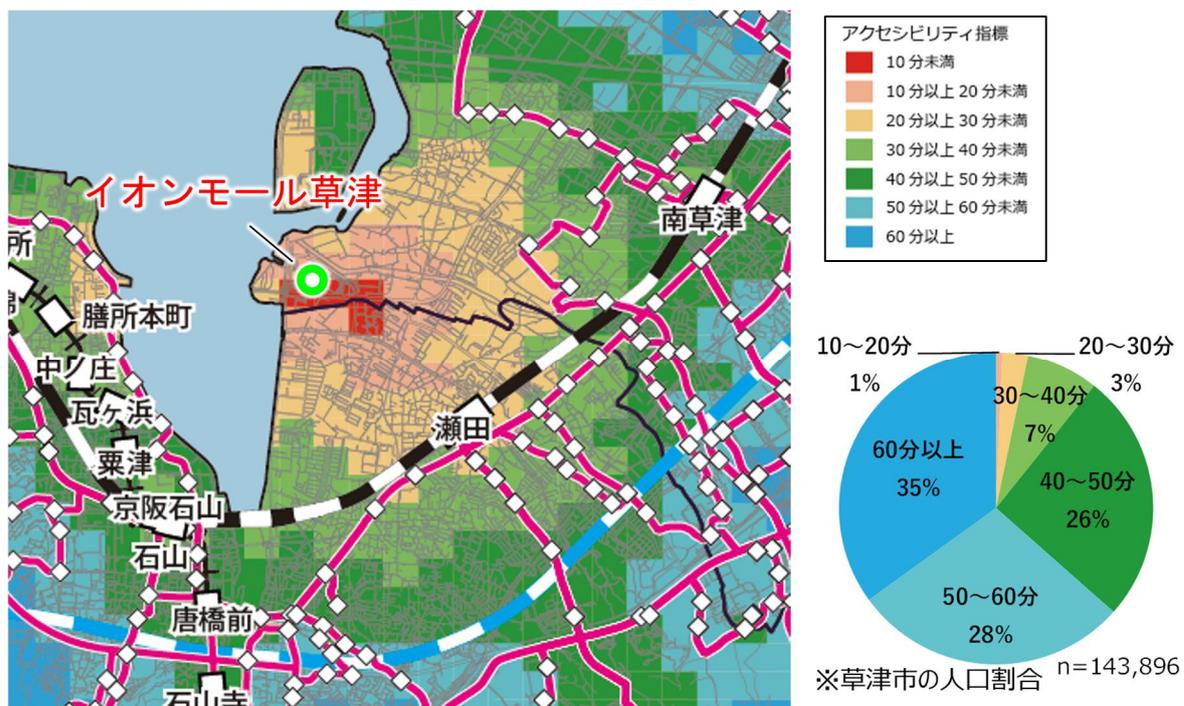


図 2.78 イオンモール瀬田線等が利用できない場合におけるイオンモール草津へのアクセシビリティ

2.3.6 湖西地域(大津市北部、高島市)

1) 移動の状況

湖西地域は大津市北部（小松・木戸・和邇・葛川・真野・堅田等）内の流動や、県内他地域との流動が多く、高島市は大津市との流動が多い傾向があります。また、発生集中量が多いエリアは、鉄道駅を中心に一部郊外部の工場等集積地にも存在しています。

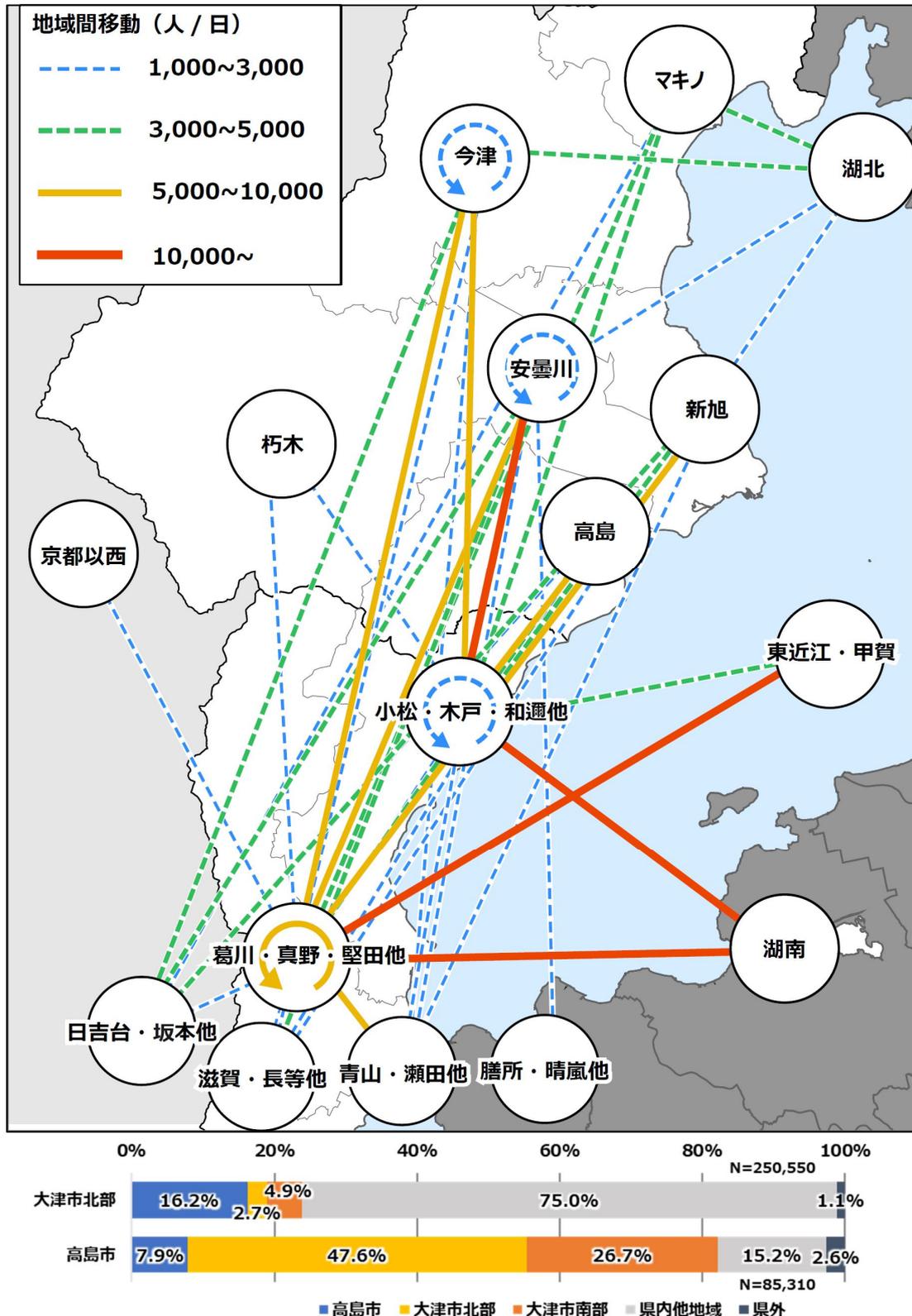


図 2.79 湖西地域の流動(出典:全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

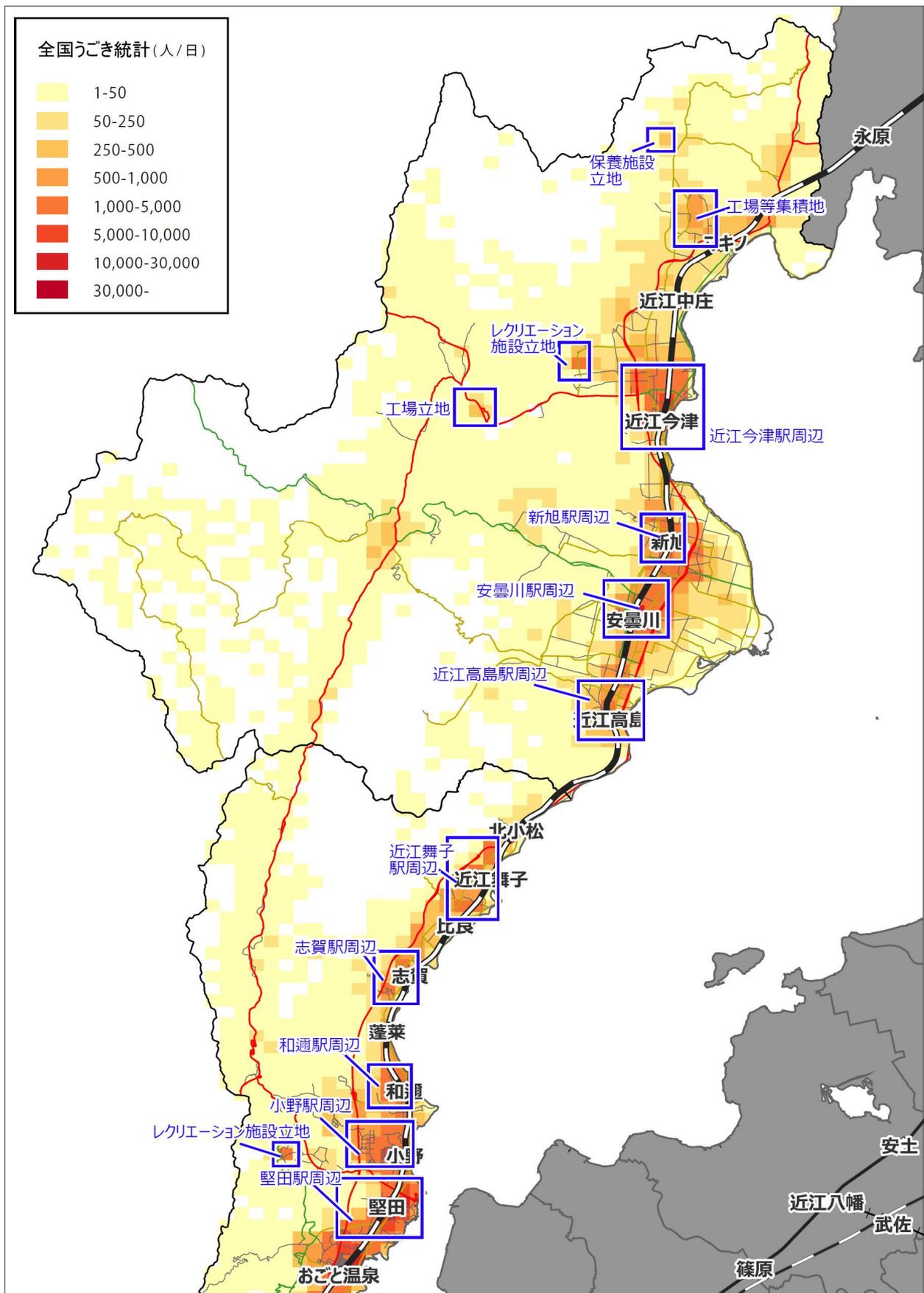


図 2.80 湖西地域の発生集中量(出典:全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)